

妊活・不妊治療におけるパートナーシップ構築を目的とした コミュニケーション促進ソリューションの効果検証



vivola **TEIJIN**

最終報告会資料

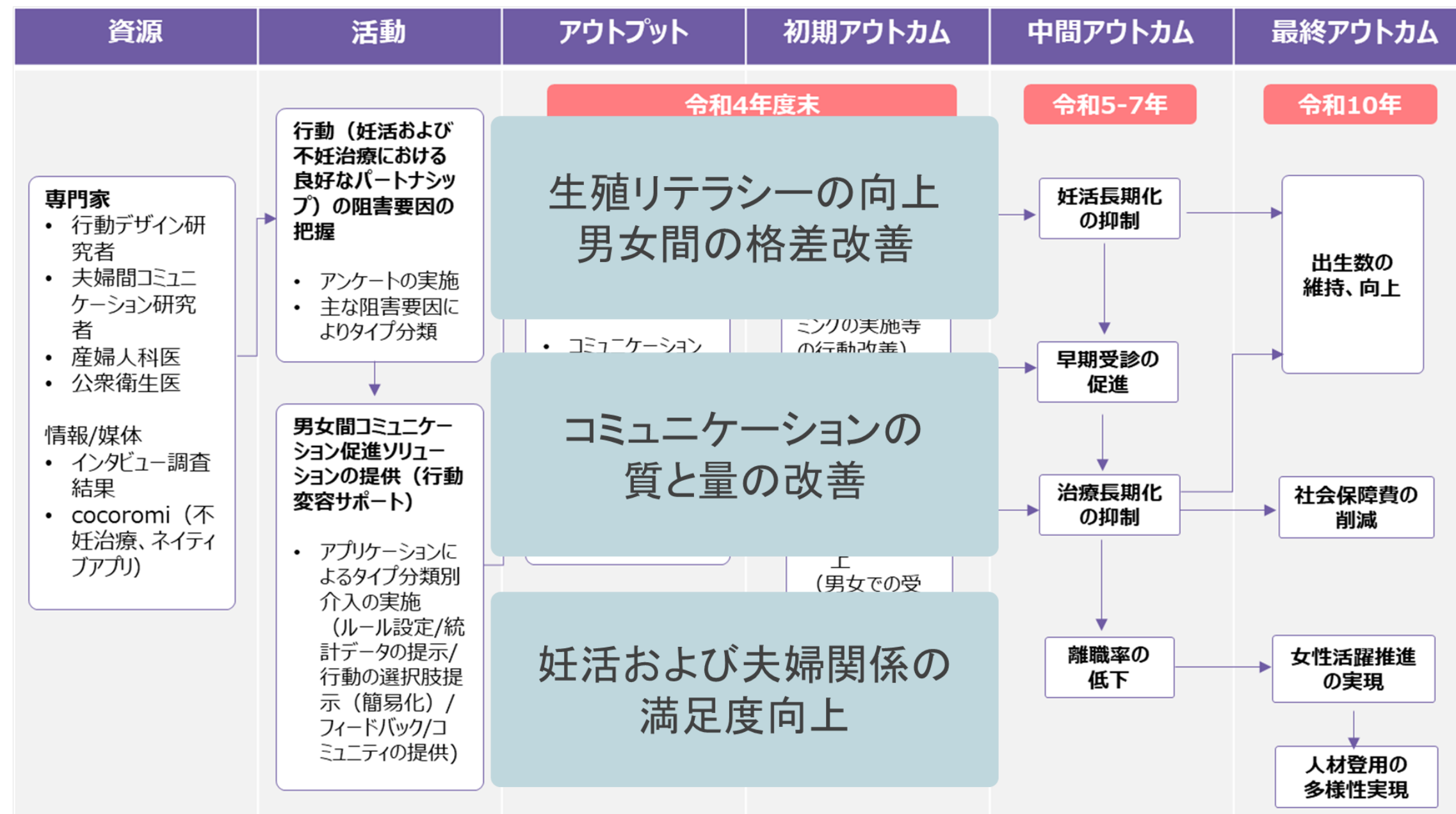
2023年2月17日

Agenda

- | 事業計画（目的と実施事項）
- | 事業計画に基づき実施したこと
- | 本事業の成果と課題
- | 今後の事業展開

事業の目的/目標

妊活・不妊治療における男女間の知識差や価値観のズレ、コミュニケーション不足により発生するストレスをパートナーシップ構築をサポートすることで低減させ、中長期的には妊活・治療の長期化を抑制し、離職率低下へ寄与することを目的とする



実施事項

| 妊活・不妊治療中の男女におけるパートナーシップ構築の促進ソリューションを開発し、各30組以上のカップルへ3か月間PoCを実施

TEIJIN

妊活ビギナーの
夫婦・カップル

vivola

不妊治療中の
夫婦・カップル

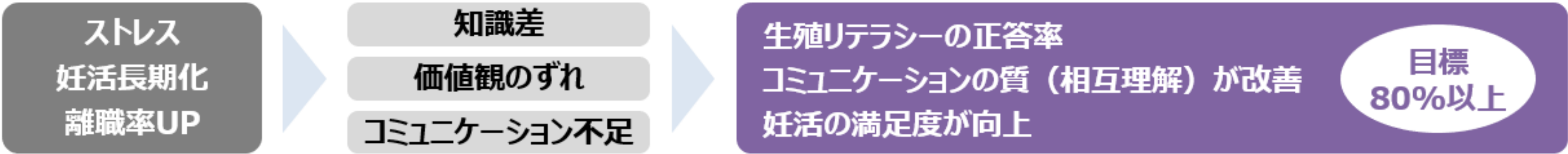


vivola **TEIJIN**

事業計画に基づいて実施したこと

妊活領域

本実証実験の目標アウトプット



妊活におけるパートナーシップ支援WEBアプリの開発



WEBアプリを使用した実証実験（3カ月間）



本事業の成果

1.生殖リテラシーの正答率が男女ともに80%以上

- ✓ 男女ともに生殖リテラシー水準は高い
- ✓ 男女ともに正答率が低い設問には共通性がある

テスト概要

【必須】
Q27F 妊活クイズ
こちらクイズとなっております。正解と思うものをお選びください。
(お答えはそれぞれ1つ)

	○	×
マスターベーションしすぎると妊娠しにくくなる	→	● ●
避妊せずにセックスをすれば、すぐ妊娠できる	→	● ●
卵子の質は加齢によって低下する	→	● ●
不妊の原因のほとんどは女性である	→	● ●
葉酸サプリは妊娠してから摂取しはじめるのがよい	→	● ●
妊活中でも新型コロナウイルスの予防接種をうけてもよい	→	● ●
妊活を始める前にパートナーと風疹の抗体検査を受けたほうがよい	→	● ●
女性が低容量ピルを常用していると、将来妊娠しづらくなる可能性がある	→	● ●
妊娠確率を高める為に、男性は排卵日の前に5日以上禁欲したほうがよい	→	● ●

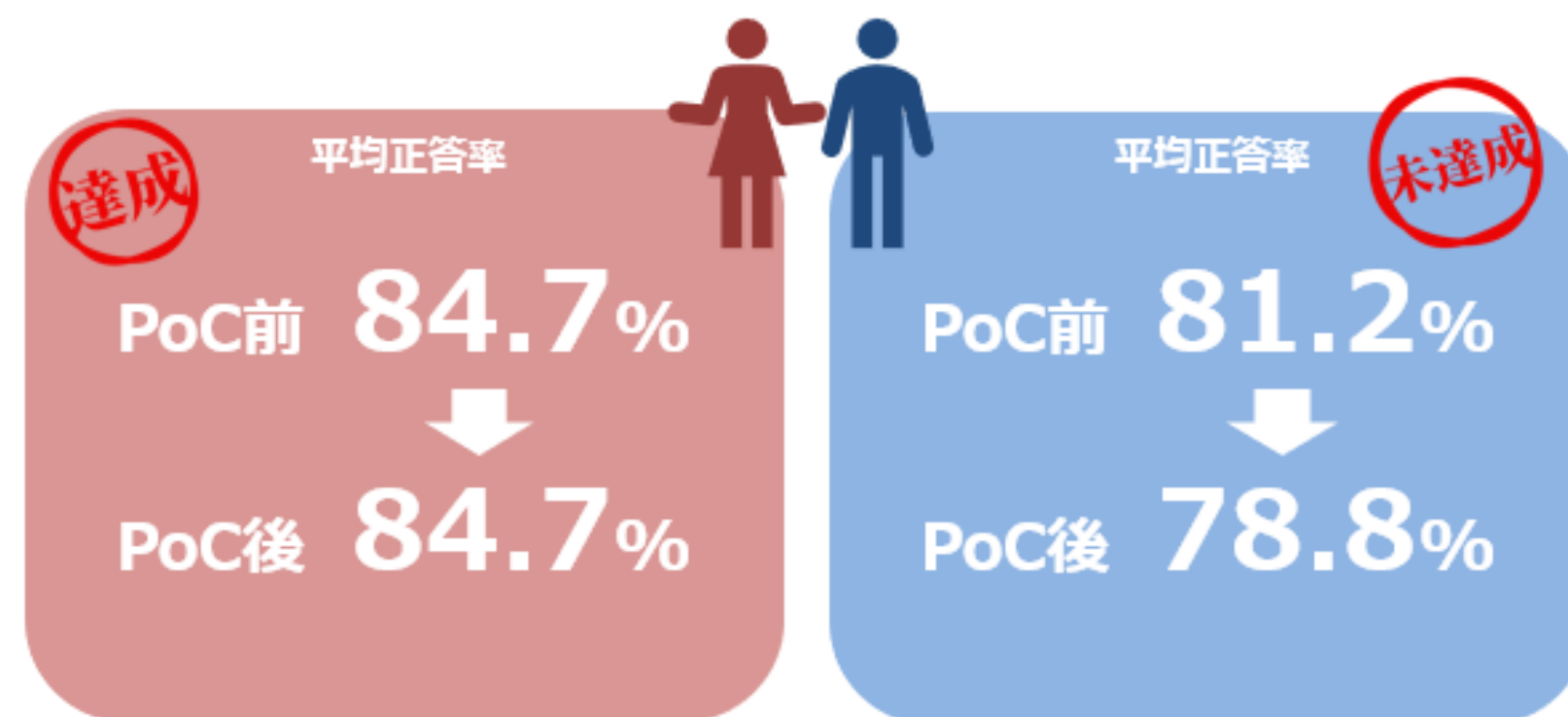
対象：モニター応募カップル34組（68名）

方法：WEBテスト（択一式）

測定：事前アンケート内で設問（10問）に回答

事後アンケート内で設問（10問）に回答

生殖リテラシーテスト結果



※設問は事前・事後で一部入れ替えて測定

※設問は産婦人科医監修のもと独自に作成

※テスト設問の選定については産婦人科医の推奨を参考

本事業の成果

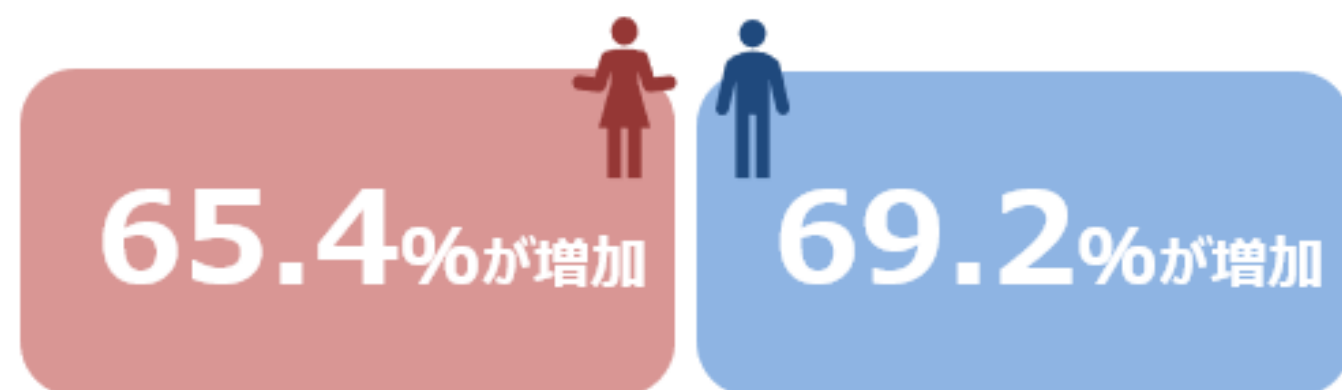
妊活領域

2.コミュニケーションの質（相互理解）が改善したカップルが80%以上

✓ 自己とパートナーの価値観の理解 + カップルのコミュニケーション活性化が相互理解の評価につながった

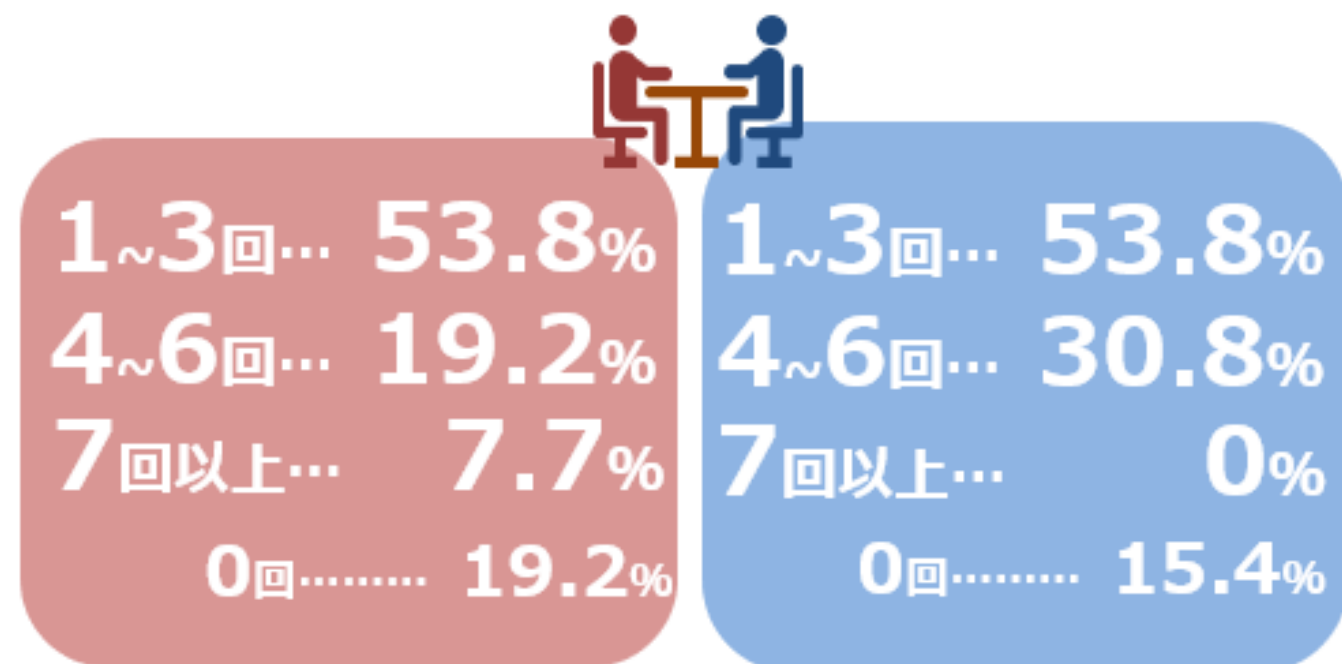
コミュニケーション量への影響

パートナーと話し合う頻度（アプリ使用前と比較）



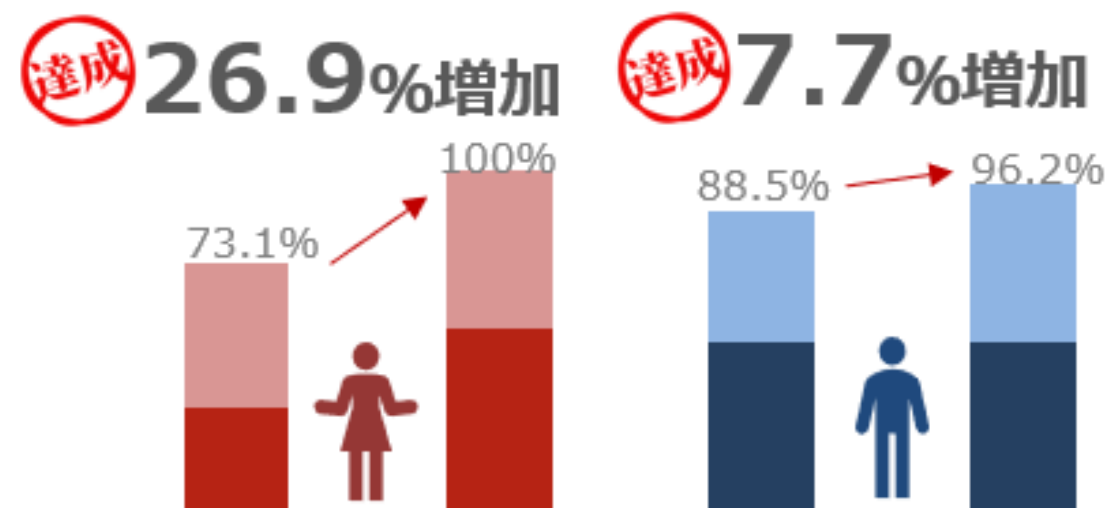
「とても増えた」「やや増えた」と回答

アプリがきっかけで話し合いに至った回数



コミュニケーションの質への影響

パートナーと妊活についてお互い理解している



自分の価値観を把握している



パートナーの価値観を理解している



相手があなたの価値観を理解している



「そう思う」「ややそう思う」と回答

本事業の成果

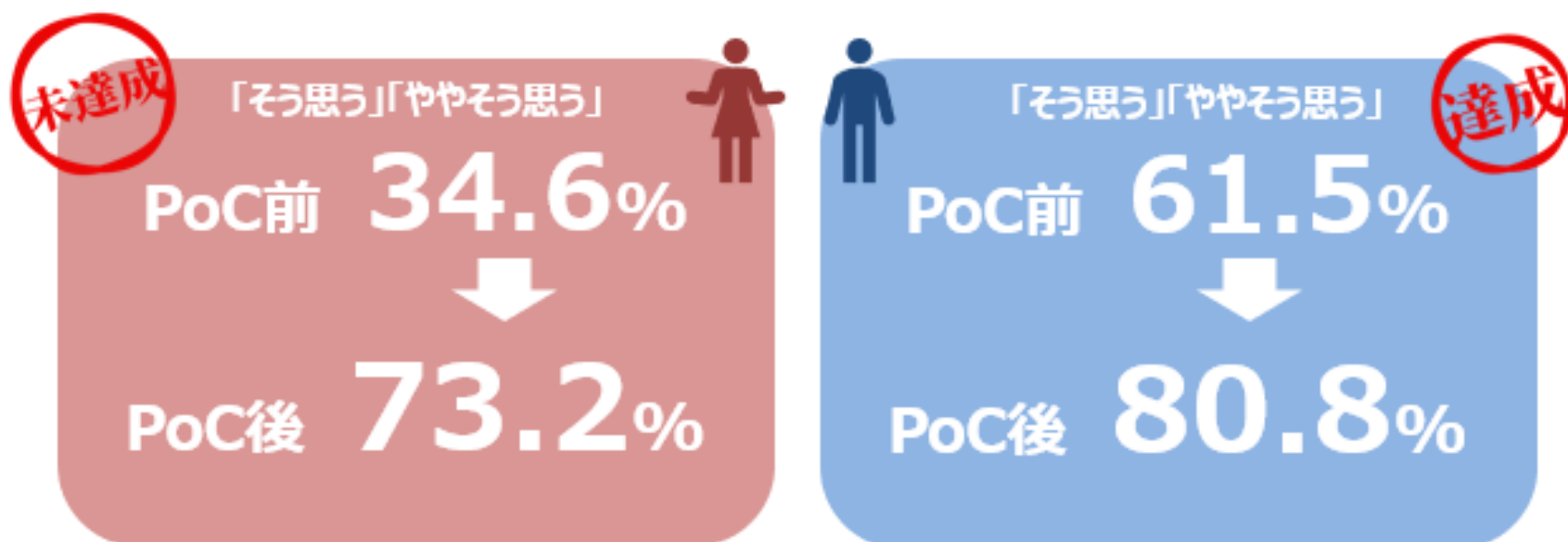
妊活領域

3.妊活の満足度が向上したカップルが80%以上

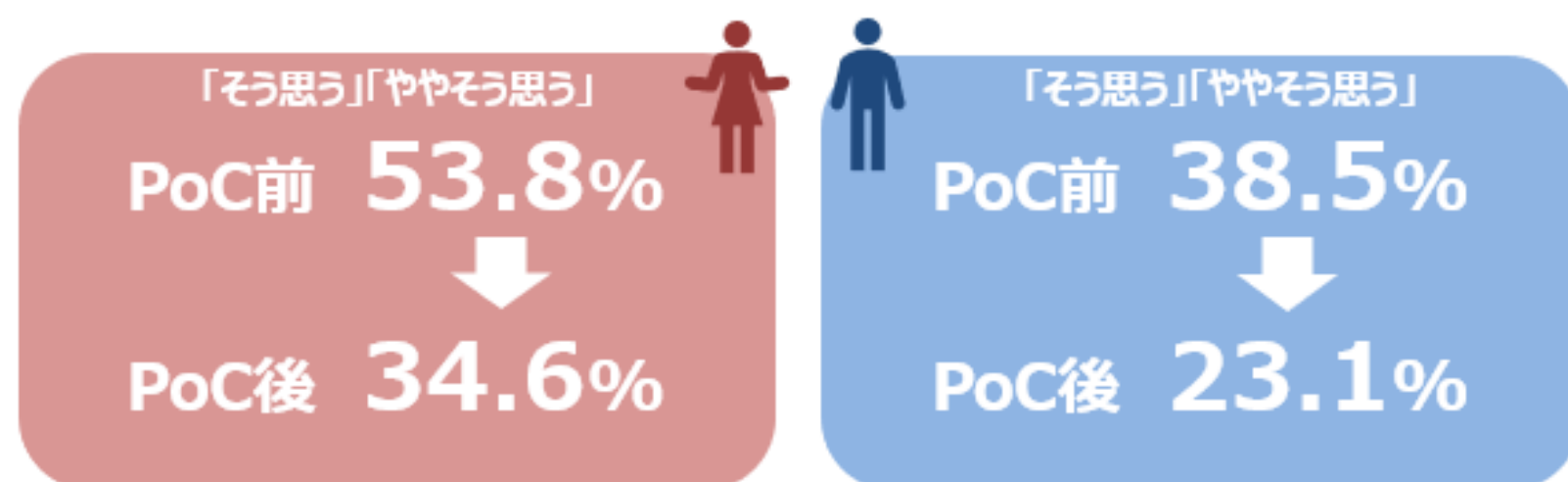
- ✓ 実証実験を通して妊活に不満を感じている割合も男女ともに減少
- ✓ コミュニケーションが活性化したことで男性の不満が顕在化した可能性あり

満足度への影響

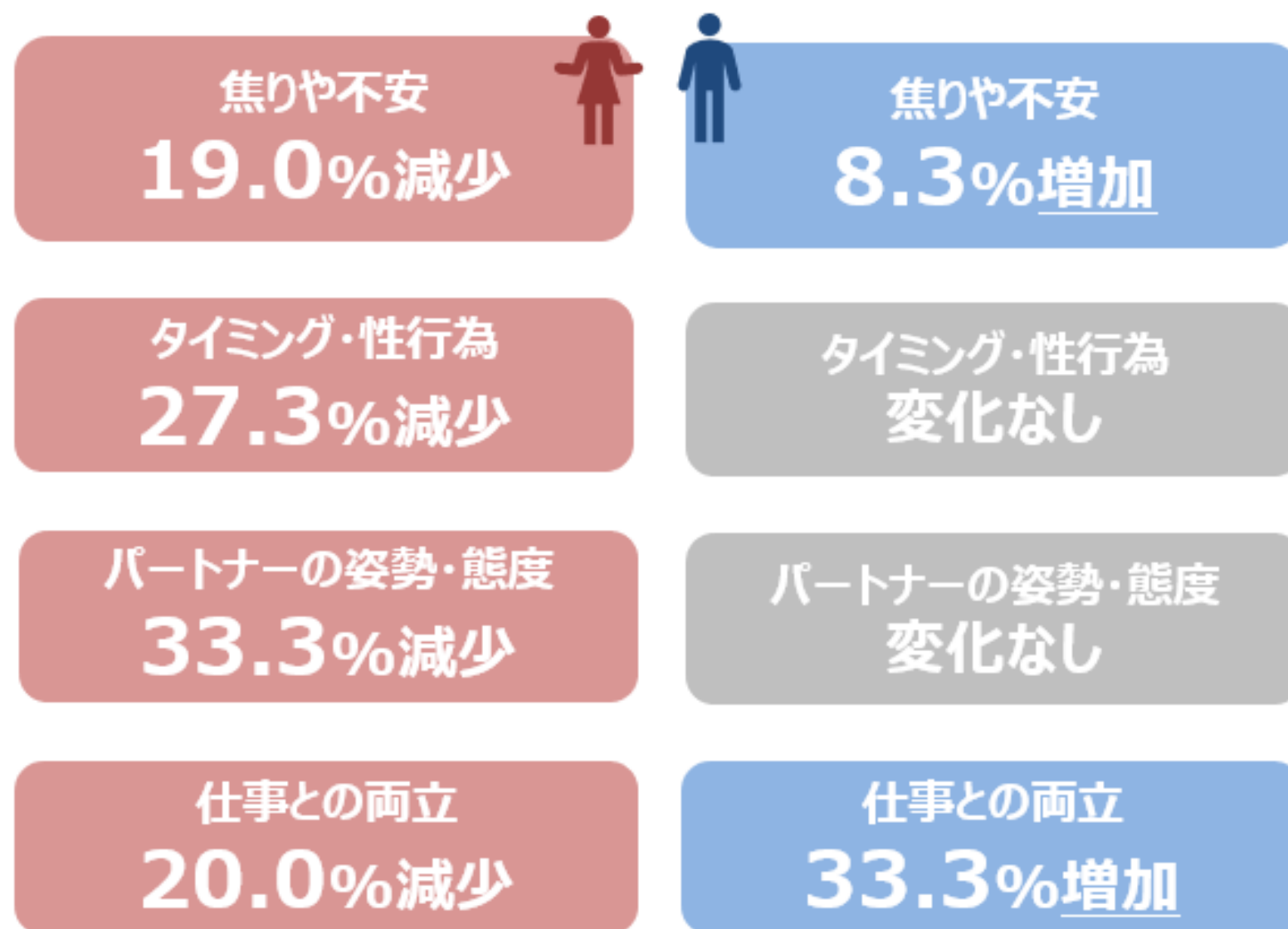
現在の妊活に満足しているか



現在の妊活に不満である



妊活における不満要因の変化（PoC前後比較）



本事業の課題

妊活領域

本事業のPoCから見えてきた課題

| アプリ・コンテンツ

- **アクセス数が想定より低かった**
 - 意図や使い方を理解してもらえるようUIや回遊性の設計の改善
- **効果的な離脱対策ができなかった**
 - アプリ以外のサービスも絡めたコンテキスト形成と継続的なリテンションの工夫
- **機能的な制約によりコミュニケーション促進のアイデアを実現できなかった**
 - アクセシビリティ向上にむけてネイティブアプリ化の検討
- **仮説やサービス設計が詰め切れていなかった**
 - 女性視点、男性視点、カップル視点でみたカスタマージャーニーの整理

| パートナーシップ

- **女性と男性の妊活に対する「温度差」解消の難しさ**
 - 男性側の強力な引き込み、「自分ごと化」の仕組みが必要

| オープントライアル

アプリのブラッシュアップ
コンテンツとUI/UX改良



ネイティブアプリ化
通知・連携機能の強化



| 妊活サービスの拡充

リアルサービス
モノ活用



連携体制構築
パートナーシップ課題に取り組む



事業計画に基づき実施したこと

不妊領域

不妊治療パートナーシップ支援アプリの機能開発およびPoC

コンテンツ

- パートナーとのコミュニケーション診断（夫婦関係満足度尺度）/アドバイス
- 治療状況に合わせた男女それぞれに週1メッセージ配信/アクション把握

PoC

- 対象：不妊治療（体外受精）中のカップル **39組78人**参加（途中3組が辞退）
※8割:cocoromiアプリユーザー、2割:新規ユーザー
- 期間：2022年11月-2023年1月の**3か月**間実施



コミュニケーション診断



診断結果共有



週次配信



コラム紹介



翌週アクション把握

本事業の成果①

不妊領域

vivola

不妊治療パートナーシップ支援アプリの開発

アクション状況

- 週次のアクションは女性は約4割、男性は約3割、減少率は男性が高い
- 週 1 配信以外に、人気のコラム記事などのメッセージを送り、アクション率は5-15%上昇
- 3か月間のアクションは女性9割、男性8割程度

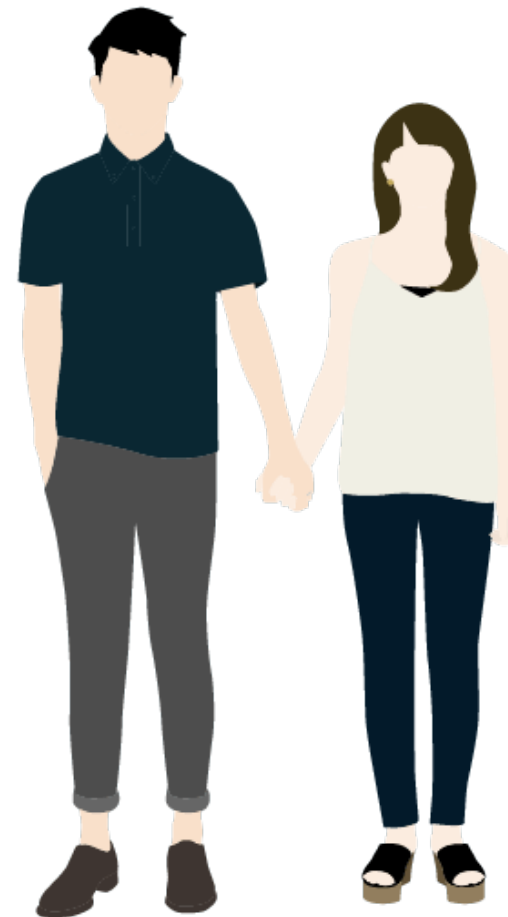
週次アクション
週ごとの平均

29%

3 か月アクション

PoC期間中での実施率

78%



40%

週次アクション
週ごとの平均

90%

3 か月アクション
PoC期間中での実施率

不妊治療パートナーシップ支援アプリの開発

パートナーシップ機能についてのご意見

- 総合的に使ってみたいと感じたカップルは60%
- すでにリテラシーが高い、パートナーが協力的でなかったカップルからは低い評価をいただいた
- 思っていること、感じていることを文字で伝える機能も欲しいなど、具体的な改善案もいただいた

＜その他アンケート回答＞

メッセージ/コラムの
不妊治療の知識アップ **66%**

相手が生活の中で実践
してくれていると感じた **54%**

アプリでこの機能を使っ
てみたいと感じるか **58%**

【ポジティブな意見】

パートナーから思いやりの言葉が増えて、
参加して良かったです。

【ポジティブな意見】

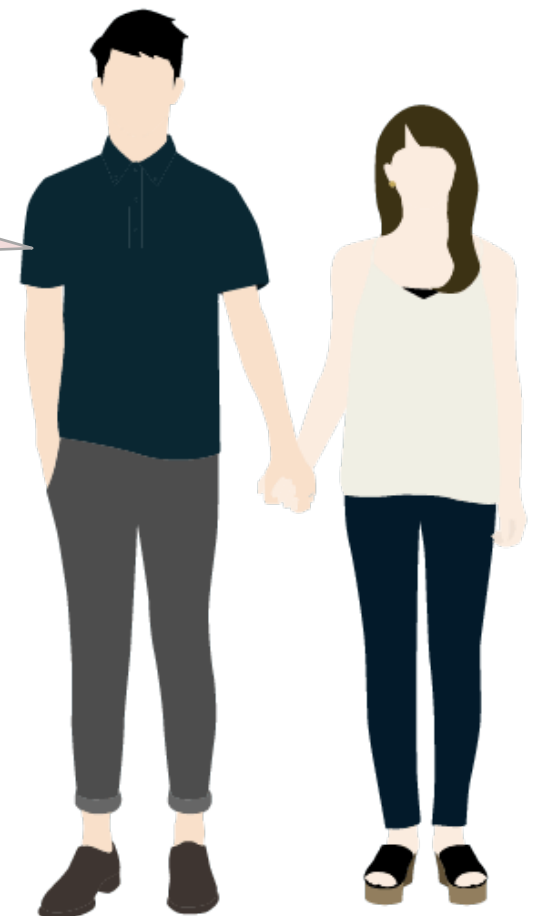
不妊治療は努力しても報われないが、せめて
パートナーに理解してもらえるツールは良いと思う。

【改善を希望する意見】

第三者だけでなく、自分の気持ちを文字で共有でき
る機能があると嬉しい。

【ネガティブな意見】

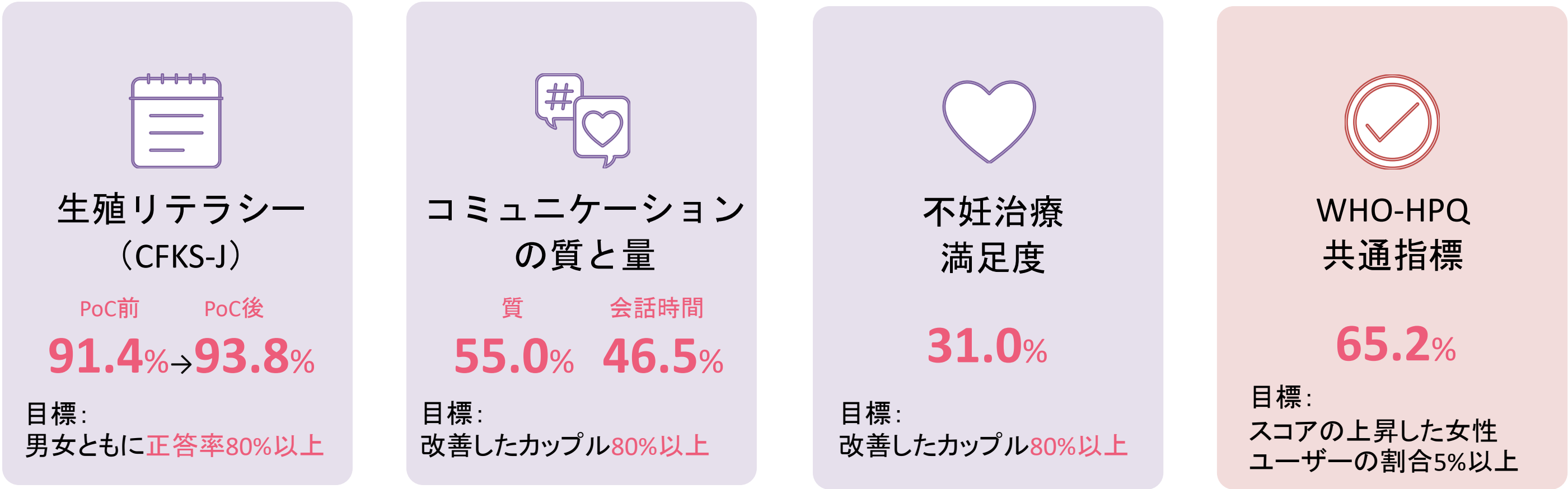
コラムなどは自分の知識以上のものはなかったし、わ
ざわざアプリで共有するほどの情報でないと感じた



本事業で定めた4つの成果指標について

成果指標ご報告

- 生殖リテラシーは目標をすでにPoC前に達成、不妊治療患者のリテラシーは一般より大幅に高い
- コミュニケーションの質と量に関しては目標未達、約半数の方が改善と回答した
- 不妊治療満足度については、治療で成果が出なければ結局上がらないとの回答が多く、約31%と目標未達



本事業のPoCから見えてきた課題

| スキーム

- 行動変容が起こらないユーザーに対して、**個別に迅速に対応するスキーム**がない
- 第三者介入だけでない、**当事者の思いを共有できる仕掛け**が必要
- 既存アプリに追加することで、使い勝手を煩雑に感じるユーザーが多かった

| メッセージ/コラムの内容

- 不妊治療患者は、リテラシーに差がありスコープの定め方が難しい
- 座談会やインタビュー記事も掲載したが、制作コストが高い

情報共有の習慣化が課題のカップルには良いソリューションだが、
興味関心や実行面が不足するパートナーがいるカップルは解決に導けなかった

今後の事業展開

正式リリース前にやること

| 定量アンケート/座談会の実施

- 女性側の意見が集まりやすいが男性側からも意見を収集
- アンケートだけでなく、インタビューや座談会を繰り返し生の声を拾い続ける

| 事業者間の情報共有/動画制作

- パートナーシップに取り組む事業者、影響力のあるYoutuberと動画コンテンツを制作中
- 事業者の枠を越えて、カップルへ問題提起をすると共に、各事業者のサービスの選択肢を伝える
- 3/8 国際女性デーから1週間、1日1本配信予定



今後も、パートナーシップに取り組む事業者、サポートしたい自治体とご協力をしていきたいと考えています。
ご関心のある事業者様、自治体様、ぜひお声がけください！